

前号の1年生の作文はいかがだったでしょうか。1年生らしい、率直な思いが書かれていると同時に、ものの見方が温かい作文だったと思います。

行事作文は、自分しか知らない行事の様子を書くということを基本としていますが、今回の行事作文には、次の条件を加えてあります。

- 1年生は、書きたいことを一つか二つに絞って書く。時系列で書かない。
- 2年生は、会話文を入れることと、最後に作文内容にあう情景描写表現を入れる。
- 3年生は、会話文を入れることと、これまでに習った表現技巧を入れる。
- 全学年、タイトルに「文化祭」という言葉を入れず、自分の作文にふさわしいタイトルとする。各学年の条件部分に注目し、子供たちの「表現」を楽しんで読んでいただけたら幸いです。

今回は2年生の作文を紹介します。「やってみること・行動することが世界を開いてくれる」ということを体験を通じて学んだことがわかる作文です。

## 文化祭作文 ~その2~

やってみようとする

二年 棚田 歩来

「やってみない？」と先輩から誘われた書道ガールズ。昨年も誘いを受けたけれど、結局断ってしまったので、少し心残りでした。だから、今年はやってみようかなと思いました。

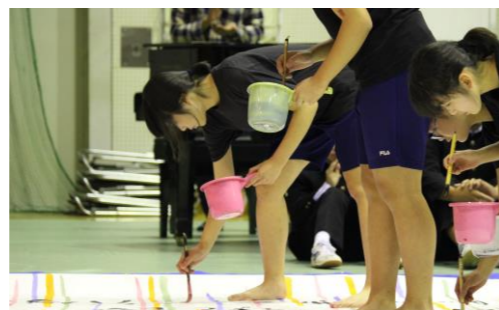
私は、小学校二年から六年まで書道教室に通い、昨年は書き初めで大会で金賞をとることができたので、字にはそこそこ自信があります。それを生かすチャンスだと思いました。また、昨年の書道パフォーマンスを見てカッコいいなと思ったので、自分からやってみようという気持ちになれたのかなと思います。

昼休みに集まって打ち合わせをしたりした本番前日の土曜日、実際に書いて練習しました。準備は大変だったけど書くことは楽しかったです。私は、最初の行で、「個々に辿り着くまでに」という字を書きました。短い部分だったけど、練習用の模造紙にたくさん練習しました。「ん書」のメンバー七人で、時間をかけて準備しました。何から何まで三年生ががんばってくれたので、すごく助かりました。

そして、本番。少し緊張気味だったけど練習以上にうまく書けました。すごく楽しかったです。途中インクをこぼしてしまったり、拭き取る紙が足りなかったり、立てる時に紙の一部が破れてしまったりと、ハプニングがありましたが、結果、うまくいったと思うのでよかったです。今年は、事前に全校生徒に「やってみたいこと・挑戦してみたいこと」を書いてもらい、用紙の周りに貼りました。それが、いつもと違っていいなあと思いました。あとから全体を見ると、大筆の「進」という字を中心とした味のある字が完成していました。

今回、八代目「ん書」に出てよかったなと思いました。また、来年も受け継いで九代目としてやってみようと思います。

帰り道、文化祭が終わってしまったことをさみしく、そして思い出に残る文化祭となったことをうれしく感じている私の頬を、秋風がそっと吹き抜けていきました。



自分の変化 二年 与野井 瑛史

「終わった気がしないね。」僕は、そう姉ちゃんと話しながら迎えの車に乗り込んだ。僕は、文化祭が終わったにも関わらず、胸がまだドキドキしていた。今でも文化祭の光景が頭の中に浮かんでくる。特に強く浮かんでくるのは劇だった。どの学年も個性にあふれていたと思う。

一年生の劇は、明るく元気な声で、セリフが飛んでも気にせず、のびのびやっている気がした。ういういしくて、見ているこっちまで思わずにこにこしてしまうような劇だった。僕たちも去年はこんな風に先輩から見られていたのかなあと考えると、少し恥ずかしくなった。

僕たちの劇は、持ち前の元気の良さや面白さを織り込んだ劇だった。末田先生のアイディアの部分でたくさんの人が笑っていて「してやったり」と思った。誰かセリフを飛ばさないかと湊太君と席でドキドキしながら見ていたことも印象に残っている。

三年生の劇は、すごく感情がこもっていて去年よりはレベルが上がってさすがだと思った。来夢やこうすけと口をあぐりと開けながら見ていたのを覚えている。引き込まれるってこんなことだと実感できた。

このような光景がどんどん頭に浮かんでくる。スポットライトに照らされて輝きながら生き生きと演じている人を見て、いつかそんな役もやってみようと思った。人前に出るとすごく緊張してしまう僕がこんなことを思えるようになって、自分でも少し驚いてしまった。文化祭を終え、教室に戻ると「文化祭楽しかったね」「劇、うまくなってよかったね。」などの声であふれていた。僕は、絶対来年は、よりみんなが楽しめる文化祭にすると心に誓い、友達との会話に交じていた。

「終わった気がしないね。」そう話しながら、迎えの車に乗り込む僕と姉ちゃんを、やさしく降り始めた雨が包み込んでいた。



挑戦と達成感 二年 大平 涼夏

「挑戦」。これが私の今年の柳中祭でした。私が、柳中祭で挑戦したことは二つあります。一つ目は、ピアノ伴奏です。私は、もともとピアノを習っていましたが、中一に入る頃にやめてしまいました。結果、一年半の間ピアノを弾いていない状況で「STORY」を弾くこととなりました。弾きはじめてから一週間たっても、手が思うように動かず、焦りしかありませんでした。

そこで、私が前に教わっていたピアノの先生に楽譜を簡単に直してもらい、一週間に一回、先生の家で教えてもらいながら練習することとなりました。先生のおかげで、ピアノは本番の一週間前に仕上がりました。クラスのみんなと体育館でも教室でもたくさん練習を重ねることができました。

本番では、すごく緊張して楽譜が頭から抜けそうでしたが、友達や先生、家族から「大丈夫。絶対できるから頑張れ。」と言われ、緊張がほぐれ、少し落ち着くことができました。たくさん練習した分、本番で指揮者とクラスのみんなの息の合った合唱ができたときはすごくうれしかったし、達成感がありました。その時、ピアノ伴奏を引き受けて本当によかったなと思いました。

二つ目は、生徒会のメンバーとして、柳中祭を進めたことです。私は、生徒会に関わるのは初めてだったので何事も楽しく作業ができました。人前で話すことも多くなりました。「前が出るからには、堂々としなさい。」とアドバイスされていたので、本番では、お客さんや生徒の目を見ながらはっきりとゆっくりと話すことを心掛けました。しかし、締めあいさつの場面では、恥ずかしくなってしまう、笑ってごまかしてしまいました。つまっても照れずに言い切ることができませんでした。このことは、副会長としてのこれからの私の課題となると思います。

この二つのことから、今年の柳中祭は「挑戦」という言葉がぴったりだと思いました。

文化祭を終えた空には、星が輝きはじめていました。

